

第3回 農林水産物・食品の輸出に係る物流検討会 議事概要

1 日時

平成26年3月19日（水）15：00～16：30

2 場所

全日通霞ヶ関ビル8階会議室

3 議事概要

1. 農林水産省及び日本貿易振興機構より商流拡大に向けた取組についてのプレゼンテーションがあった。
次に国土交通省より本検討会のまとめについての説明があった。
2. 委員からは全体を通じ、以下のような意見があった。
 - 第1回検討会の際、物量がなかなか確保できないという課題が挙げたが、第3回で販路拡大の話も出た。物流の効率化と販路拡大、官民連携と材料はそろった。実践に期待する。
 - 効率化には、数値管理とフィードバックが重要になってくるだろう。
 - マッチングシステムについて、どのタイミングで更新していくかの検討も必要になる。
 - 輸出量を画期的に増やすためには、現在とは異なる販路が必要だと感じているが、企業単体で情報を集めるには限界がある。各国の規制等の制度情報や、マッチングシステムをうまく活用できれば良いと思う。
 - 輸出者というプレーヤーを増やさずには物量は増えない。まずそこを増やすことが必要。ただ、相手国があつてのことなので、そちらの裾野を広げることも当然必要になる。

- バイヤーにより、商流は様々。マッチングシステムについては、使いやすいように作ってもらいたい。
- 物流の取組はある程度進める内容が見えてきた。物流と合わせて海外販路拡大を進めないと輸出は進まないと思う。
- 一定の物量を確保するためには、荷を束ねる必要がある。輸出マインドを持った産地を作っていくことが大事。
- 産地間連携を進めることで、スポット輸送ではなく、物量を通年で確保、供給が可能となり、結果として物流の効率化にもなる。
- 具体的な輸出事業の成功事例紹介等があれば、助かる事業者もいるのではないか。

以上

(文責 事務局)